

# 上流武庫川モニタリング結果の概要

(公表版)

平成30年9月  
兵庫県

## 調査項目

### 希少水生昆虫、希少植物、淡水二枚貝の生息状況調査

## 調査内容

### おことわり

本資料は希少生物保護の観点から、公表に際しては、希少種名、位置図、グラフ等は公表を控えさせていただきます。

懇話会においても、スライド画像による報告のみで資料配付はしておりません。

## 調査結果

- ・ 確認された希少水生昆虫は区間A、区間Bともに近年は増加傾向にある。
- ・ 希少植物の確認株数は20年度移植地、23年度移植地ともに近年は増加傾向にある。
- ・ 特に20年度移植地での確認株数は、移植時のそれを上回っており、開花・結実も多数確認されている。
- ・ 淡水二枚貝の移植後の生育は芳しくなかった。

## まとめ

- ・ 区間Aでは、工事前を上回る個体数の希少水生昆虫が確認されており、流域における希少水生昆虫の生息地の核となる場所の保全・再生は、適切に図られてきたと考えられる。区間Bにおいても、河床環境が回復・再生しており、将来的には希少水生昆虫の重要な生息地として機能することが期待される。
- ・ 希少植物について、平成20年度移植株は、平成29年度においても、良好な生育状況が確認された。
- ・ 移植地の下流に新産地が確認されており、これらは平成20年度移植株から供給された種子起源の産地である可能性が高い。
- ・ 武庫川本川に生息する淡水二枚貝の多くは、田松川から流下・供給されたものが生息に適した場所で定着している可能性が高い。このため、河川改修終了後には田松川から供給される淡水二枚貝の定着状況を確認すべく引き続きモニタリングしていく。

## 調査項目

## 貴重種生育地周辺環境整備

### 調査内容



▲環境整備区間におけるオギ原の再生

### 【整備目的】

- ・オギ原の再生状況を確認するとともに、目に付く外来種の除去を行うなど、確実にオギ原へと誘導するための管理を実施した。
- ※環境整備区間のオギ原の再生が確認されたため、本調査は27年度で一旦終了する。

### 調査結果



オオブタクサの再繁茂が抑えられ、オギが優占する様子が認められる。



オギの地域性苗を植栽した区間についてもオギが優占する様子が認められる。

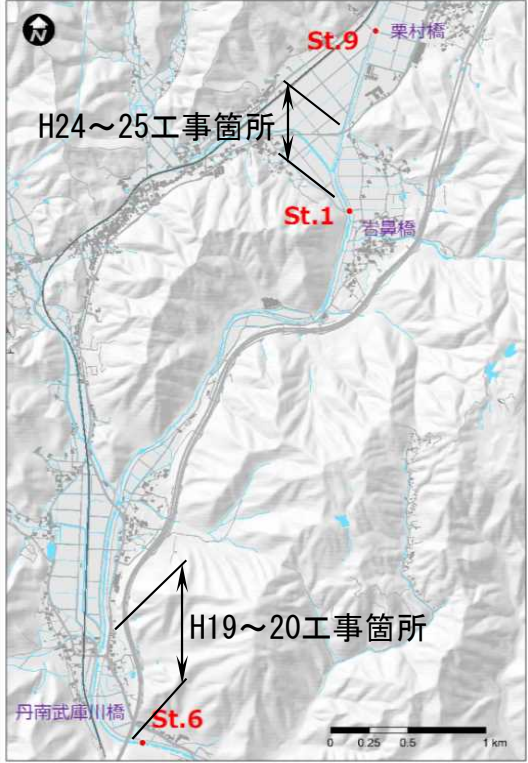
### まとめ

- ・平成24年度および平成25年度河川改修区間では、繁茂していたオオブタクサ（生態系被害防止外来種）がこれまでの取り組みにより大きく衰退した。
- ・外来種除去のみを実施した「外来種除去区間」、外来種除去に加えてオギ苗の植栽を実施した「オギ植栽区間」ともに、オギが優占するオギ原の再生・形成が認められた。
- ・一旦オギ原が再生・形成されれば、外来種の侵入や繁茂が抑えられ、今後も当該地のオギ原は持続する可能性が高い。

## 調査項目

### 河川水温調査

## 調査内容



▲水温測定ロガー

### 【調査目的】

- ・河川改修に伴う河道断面構造の変化が夏季水温の上昇を招き、水生生物の生息に影響を及ぼす可能性が指摘されたことから、過年度より継続的に、7月～9月の水温調査を実施した。

## 調査結果



St.6 及び St.1 の平均水温の推移

- ・改修工事に起因して、グラフの矢印あたりでは、St. 6とSt. 1に水温差が生じている。上流河道の拡幅（水深低下や流速低下）に起因して、一方の水温が上昇していると考えられる
- ・水温上昇は、グラフを見る限り2年以内に収束している。

## まとめ

- ・河川工事を実施すると下流河道の水温が上昇するものの、水温上昇は恒常的なものではなく、概ね2年間で収束すると考えられる。
- ・水生生物に与える影響については、確認個体数が大きく減少するなどの変化は認められず、悪影響を及ぼす可能性は低いと考えられる。